

第204回（令和3年11月28日施行）

1 級商業簿記・会計学

第1問

本問は、企業会計原則の一般原則のうち保守主義の原則（一般原則六）とそれを補足する同注解（注4）の基本的理解を問うている。

第2問

本問ではそれぞれ、1. 受託買付、2. 支店間取引、3. 繰越利益剰余金の配当、4. 固定資産の買換え、5. 社債の発行、6. 吸収合併について問うており、いずれも基本的な知識で解答できる問題である。6. についてはこれまで第4問で問われることが多いが、仕訳問題という点からは若干容易であると思われる。

第3問

本問は、現金出納帳、当座預金出納帳、仕入帳及び売上帳を特殊仕訳帳としている企業において、記帳係として仕入帳の記入ができるかどうかを問うたものである。問題文の各取引がどの帳簿に記入されるのかを見分けられるかが要点となる。帳簿記入問題は、過去問においてそれほど多くはないが、重要であるのでしっかりと理解してもらいたい。

第4問

本問は、外貨建取引の発生・決済に関する問題である。取引日、決算日、決済日にそれぞれの為替相場（レート）を用いて、各項目の金額を邦貨に換算して記録することになる。我が国では、売買取引と代金決済取引を別個の取引と捉える「二取引基準」によって処理する。

第5問

本問は、簿記的处理ができればよいというのではなく、財務諸表の作成能力も問われる。したがって、損益計算書と貸借対照表の基本的な項目の分類・配列、表示上の科目などは理解しておかなければならない。本問では、貸借対照表の負債・純資産の部の作成、報告式の損益計算書の作成、ROE（自己資本当期純利益率）の計算である。決算整理仕訳等、過去問においてもよく出題されているので完全に理解していることが望ましい。また、ROEは、財務諸表分析における重要な指標なので、計算式をしっかりと覚えておいてもらいたい。